



脳卒中や心臓病等に関する 世論調査について（報告）

「脳卒中や心臓病等に関する世論調査」（内閣府）

調査概要

- 調査対象：全国 18 歳以上の日本国籍を有する者 3,000 人、有効回収数1,656 人（有効回収率55.2%）
- 調査期間：令和 6 年 7 月 25 日 ～ 9 月 1 日
- 調査方法：郵送法
- 調査目的：脳卒中や心臓病等に関する国民の意識を把握し、今後の施策の参考とする。

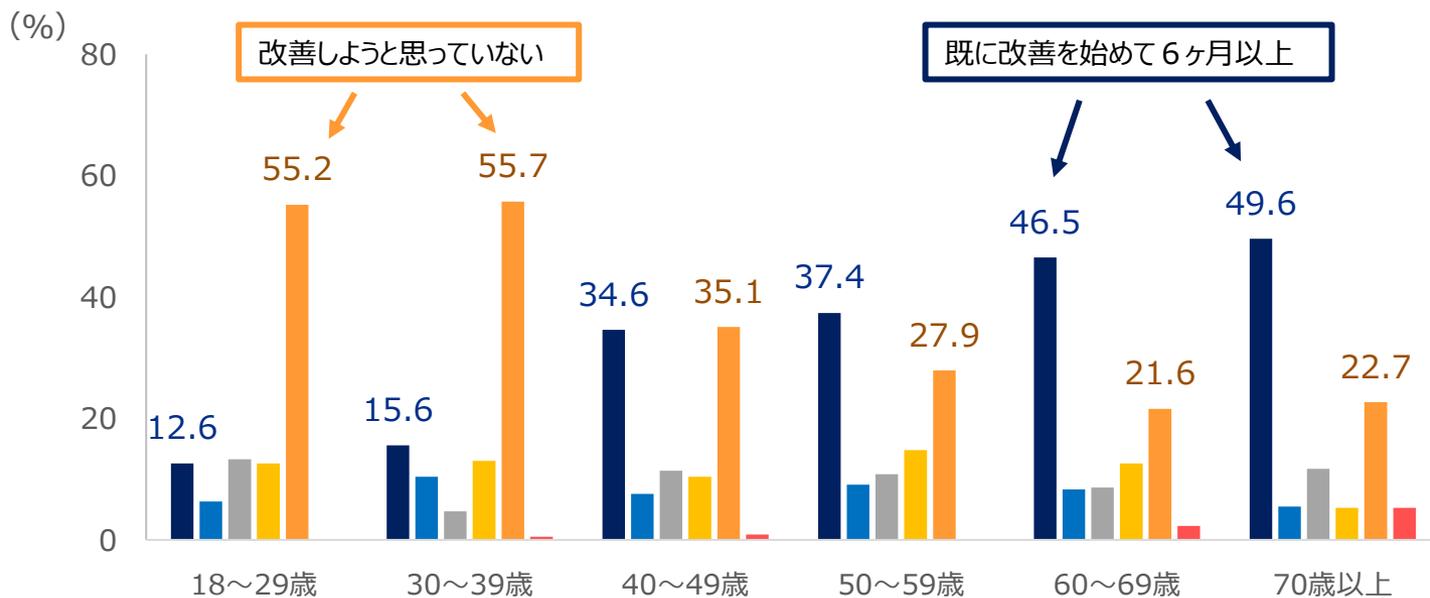
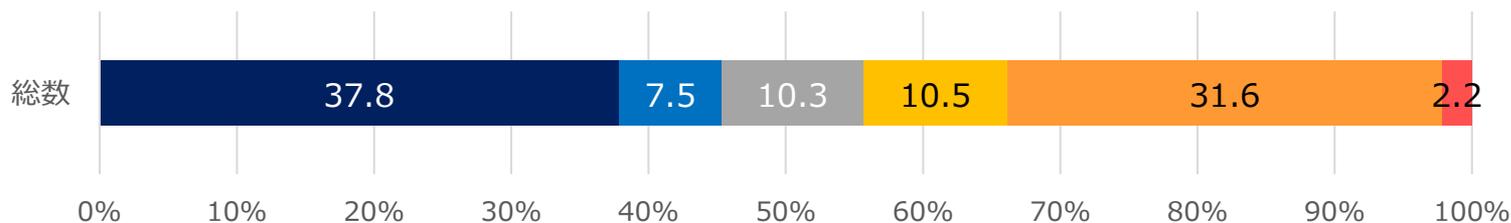
調査項目

- 1. 脳卒中や心臓病等に対する印象について
- 2. 脳卒中や心臓病等の予防について
- 3. 脳卒中や心臓病等が疑われる症状が出た場合の救急車の要請について
- 4. 脳卒中や心臓病等の病院選びの基準やその情報源について
- 5. 脳卒中の退院後の生活・就労支援について
- 6. 心臓病等の退院後の生活・就労支援について
- 7. 脳卒中や心臓病等に関する教育や社会とのつながりについて
- 8. 脳卒中や心臓病等に関する政府への要望について

調査結果：生活習慣の改善の意識について ①

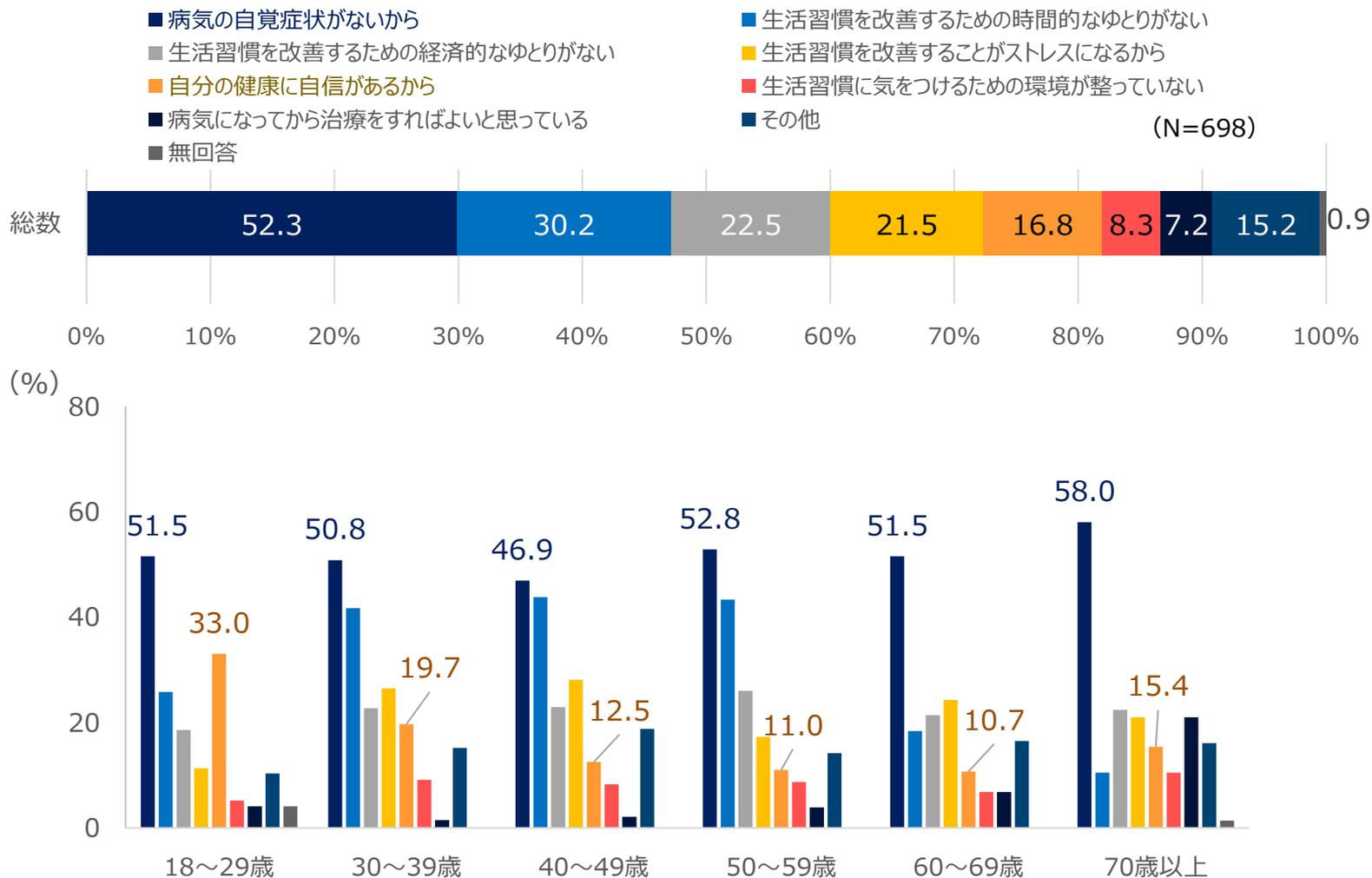
- 脳卒中や心臓病等の予防に向けた生活習慣の改善状況について、「既に改善を始めて6ヶ月以上である」と回答した人の割合は、37.8%、「既に改善を始めて6ヶ月未満である」と回答した人の割合は、7.5%であった。一方で、「改善しようと思っていない」と回答した人の割合は、31.6%であった。
- 40歳を境に、改善の意識の高まりが顕著となっている。

■ 1. 既に改善を始めて6ヶ月以上である
 ■ 2. 既に改善を始めて6ヶ月未満である
 ■ 3. 1ヶ月以内に改善をしようと思っている
■ 4. 6ヶ月以内に改善をしようと思っている
 ■ 5. 改善しようと思っていない
 ■ 無回答 (N=1656)



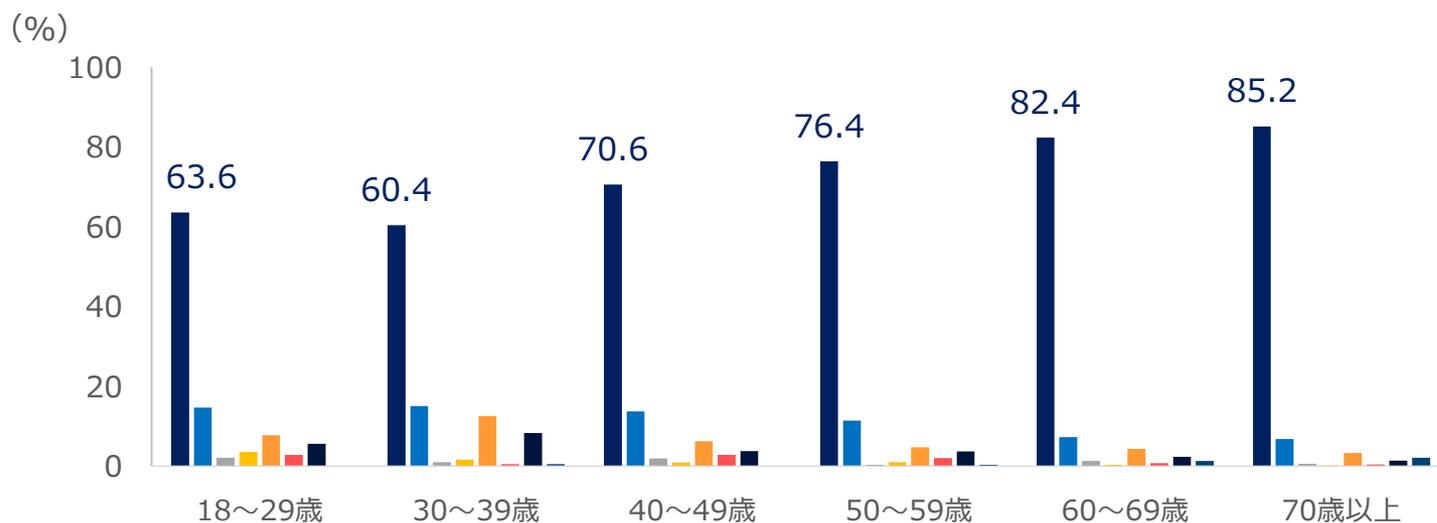
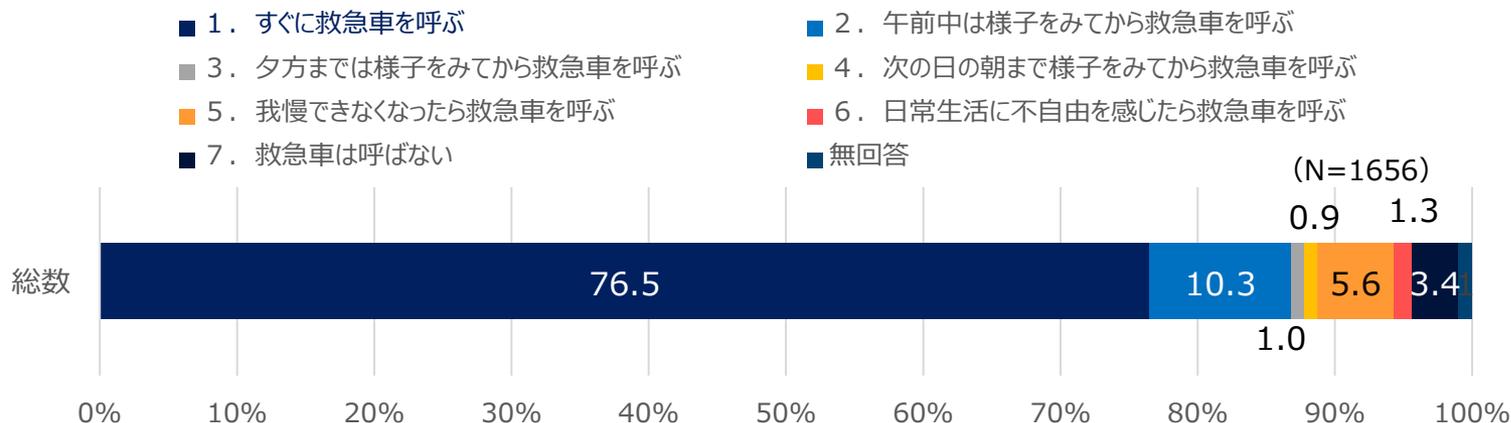
調査結果：生活習慣の改善の意識について ②

- 脳卒中や心臓病等の予防に向けた生活習慣の改善について、「6か月以内に改善しようと思っている」、「改善しようと思っていない」と回答した人に関し、すぐに改善しようと思わない理由は、「病気の自覚症状がないから」52.3%、「時間的なゆとりがないから」30.2%と続いた。
- どの年代も「病気の自覚がないから」が理由の第1位だが、20歳代までは「自分の健康に自信があるから」、30～59歳は「時間的なゆとりがない」が次点の理由となっている。



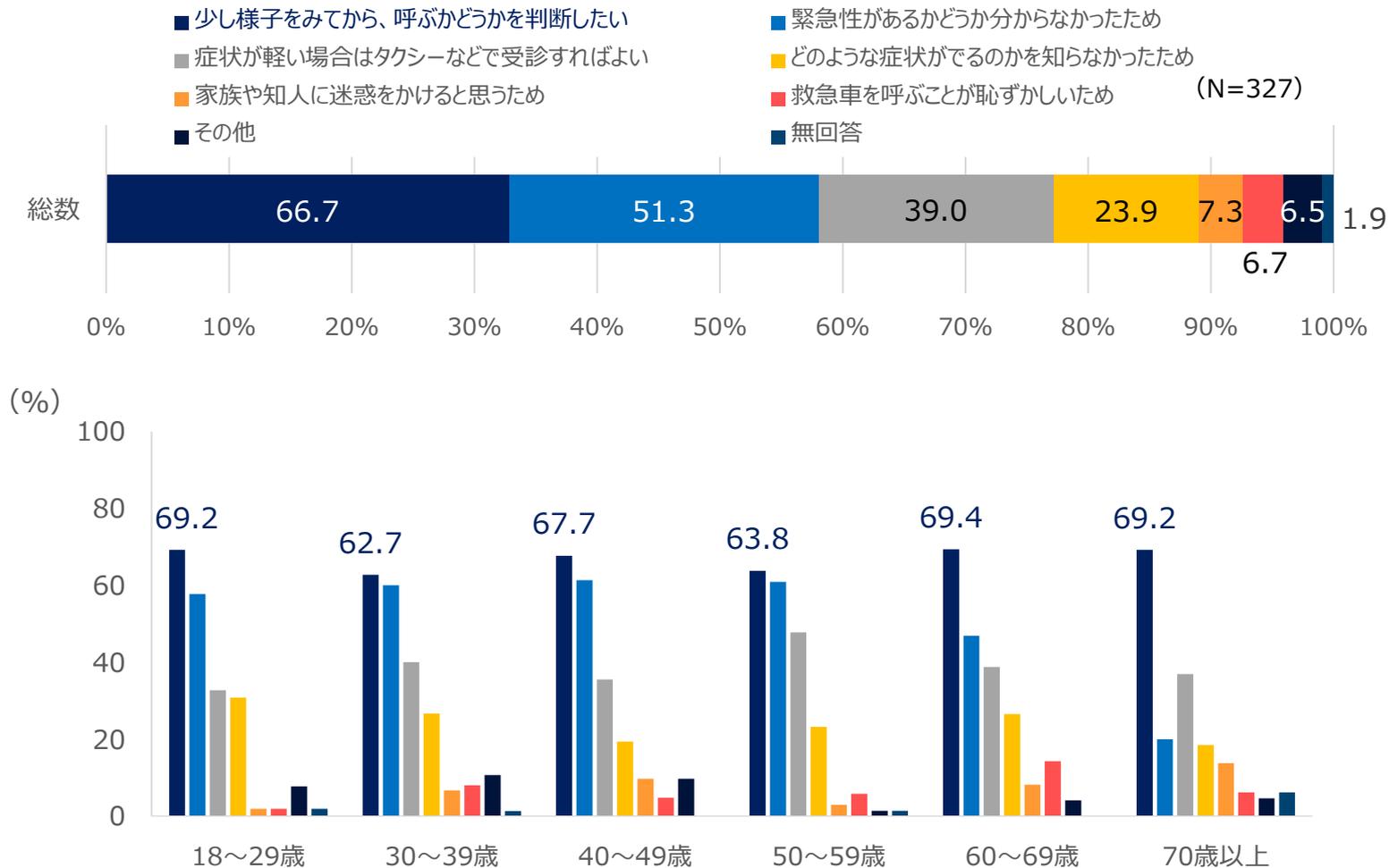
調査結果：脳卒中や心臓病等の初期症状が現れてからの受診行動について ①

- 「脳卒中」では、片側の手足の動かしくさや喋りづらさ、「心筋梗塞」では、胸の痛みや呼吸の苦しさが初期症状として現れることを示したうえで、これらの症状が現れた場合に、「すぐに救急車を呼ぶ」と回答した人の割合は76.5%、「救急車を呼ばない」と回答した人の割合は3.4%であった。
- 年齢の上昇とともに、「すぐに救急車を呼ぶ」の割合も上昇。



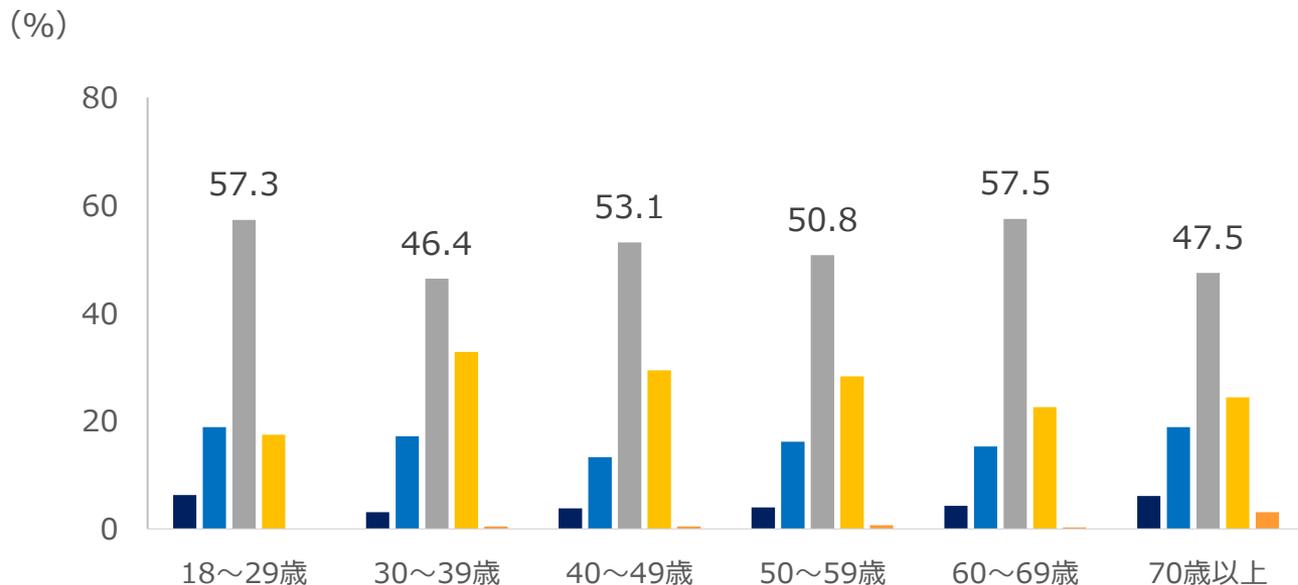
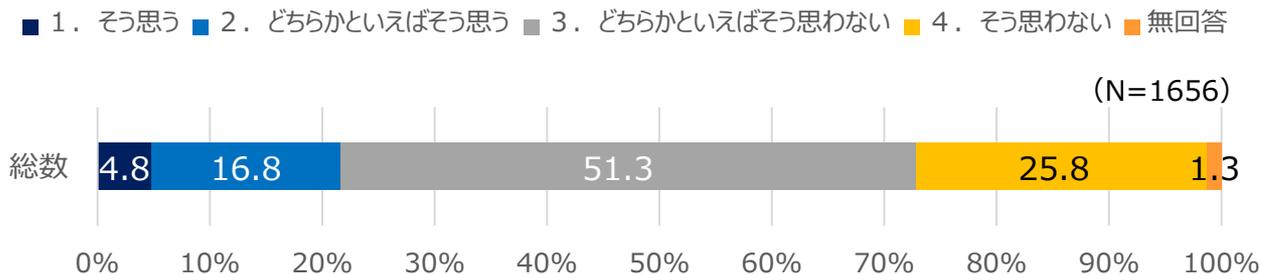
調査結果：脳卒中や心臓病等の初期症状が現れてからの受診行動について ②

- 「すぐに救急車を呼ばない」理由として、回答が多い順に「症状が改善するかどうか、少し様子を見てから、救急車を呼ぶかどうかを判断したいと思う」（66.7%）、「緊急性があるかどうか分からなかった」（51.3%）であった。



調査結果：脳卒中の発症後の仕事と治療の両立支援について

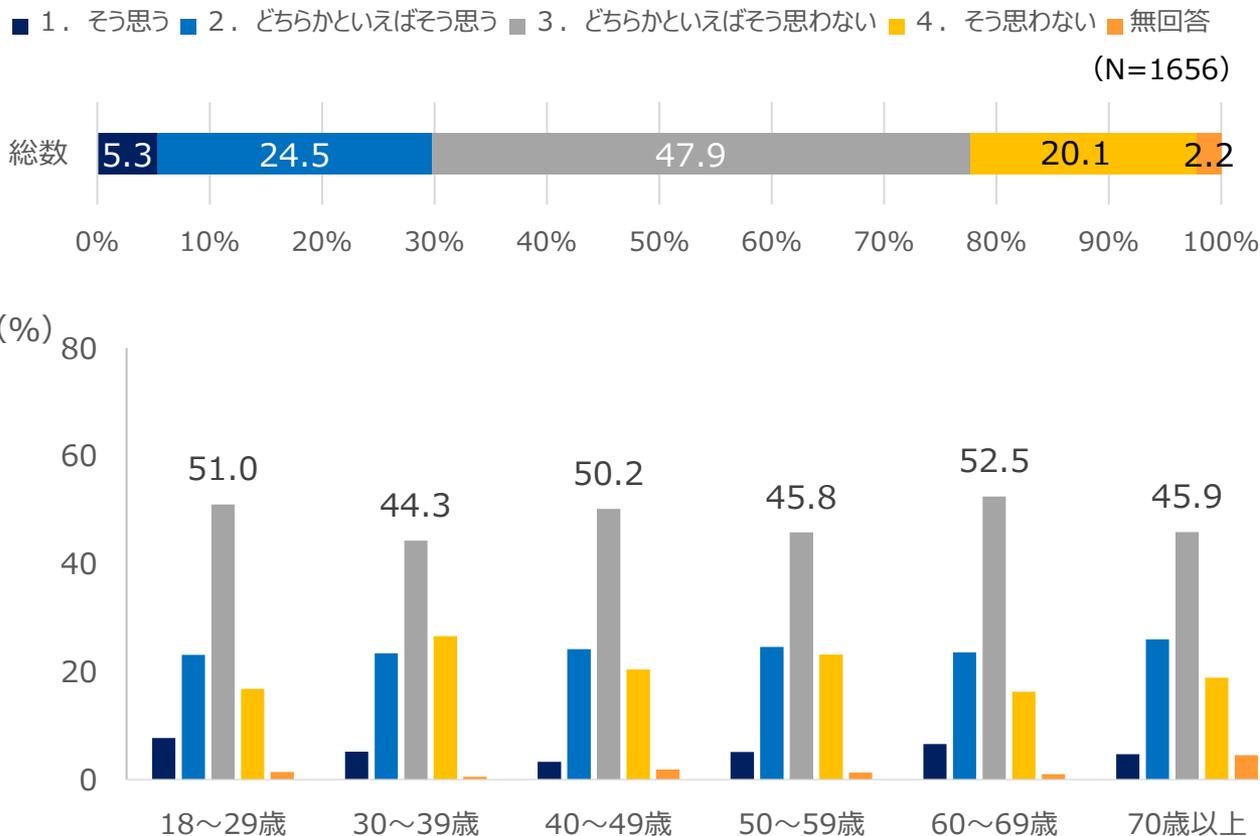
- 「脳卒中を発症した後も働き続けられる環境だと思う」旨の回答は21.6%であった。
- また、「働き続けることを難しくさせている理由」は、脳卒中では、「後遺症のために日常生活における動作などが変化したことに対する職場の環境が整っていない」（75.6%）が最も多い回答となった。



脳卒中を発症後も働き続けることを難しくさせている理由 (N=1277)	(%)
1. 後遺症に対する職場の環境が整っていないから	75.6
2. 治療・検査と仕事の両立が体力的に困難だから	55.1
3. 治療・検査と仕事の両立が精神的に困難だから	50.0
4. 職場が休むことを許してくれるか分からない	30.9
5. 代わりに仕事する人がいない、いても頼みにくい	24.2
6. 休むと職場での評価が下がるから	15.6
7. その他	4.5
8. 無回答	0.4

調査結果：心臓病等の発症後の仕事と治療の両立支援について

- 「心臓病等を発症した後も働き続けられる環境だと思う」旨の回答は、脳卒中よりも若干高く、29.8%であった。
- また、「働き続けることを難しくさせている理由」は、心臓病等では、「身体に過度な負担がかからないような業務への配置転換が難しい」（61.2%）が最も多い回答となった。



心臓病等を発症後も働き続けることを難しくさせている理由 (N=1126)	(%)
1. 身体に負担がかからないような配置転換が難しい	61.2
2. 治療・検査と仕事の両立が体力的に困難だから	60.2
3. 治療・検査と仕事の両立が精神的に困難だから	52.7
4. 職場が休むことを許してくれるか分からない	34.8
5. 代わりに仕事する人がいない、いても頼みにくい	27.6
6. 休むと職場での評価が下がるから	17.0
7. その他	3.6
8. 無回答	0.4

⇒ 調査結果をふまえ、今後の県の循環器病対策に必要な取組がありましたら、今後の事業の参考としたいため、ご意見をいただきたい。